

令和4年度 普及活動成果集



福岡県筑後農林事務所
八女普及指導センター

令和5年3月

目 次

○ はじめに

	ページ
1 普及活動成果	
（１）八女地域の園芸産地をけん引する企業的経営体の育成	1
（２）八女地域中山間地農業の構造改革	3
（３）八女の産地を支える経営体の育成と担い手の確保	5
（４）硬質小麦の高品質・安定生産に向けて	6
（５）新技術導入によるナスの生産性向上	7
（６）キク産地を担う持続的経営体の育成に向けて	8
（７）優良品種の導入と生産技術の向上による産地振興	9
（８）伝統本玉露生産者の確保に向けた仕組みづくり	10
2 トピックス	11
3 八女地域農業の概要	15
4 普及活動推進体制	16
5 令和4年の気象と各作物の生産概況	17
6 令和4年度 表彰事業実績	20
7 令和4年度 実証ほ一覧	21
8 令和4年度 現地活動情報	22

（表紙の写真説明）

	関連する普及活動成果
① 左上段……八女地域農業経営アカデミー修了式	（１）
② 左中段……電照中のキクほ場	（６）
③ 左下段……中山間地向け新品種「恵つくし」	トピックス（２）
④ 右上段……ハウス内環境測定・制御装置の導入が進むナス	（５）
⑤ 右中段……外部労働力を活用した伝統本玉露の摘心作業	（８）
⑥ 右下段……巨峰の着色優良系統	（７）

はじめに

八女普及指導センター管内は、県産出額の18%を占める県内屈指の農業地帯であり、西部の平坦地から東部の山間地まで、多様な農業が展開されています。

特に全国ブランドである「福岡の八女茶」や「電照菊」、県ブランド農産物の代表格イチゴ「あまおう」をはじめ、ミカン、ブドウなどの果樹生産も盛んな地域です。

県では、福岡県農林水産業・農山漁村振興条例に基づく「福岡県農林水産振興基本計画」の達成に向けて各種の施策を展開しています。

当普及指導センターでは、この計画に則して普及指導計画を策定し、市町、JAをはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動を展開しています。

令和4年度の普及活動については、「魅力ある人財と匠の技で輝く八女農業」をスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と15の係課題に取り組んできました。

令和4年度は、晩霜や台風、高温乾燥による影響はあったものの、各品目概ね順調な生育となりました。しかしながら、国際情勢による肥料をはじめとした生産資材や燃油価格の高騰、コロナ禍での販売環境の変化など、経営にも大きく影響しました。

この冊子は、こうした課題の解決に取り組み、令和4年度に一定の成果が上がったものを取りまとめたものです。いずれも農家リーダーの皆様、市町・JAなど関係機関の皆様との連携活動によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

当普及指導センターは、今後とも農業者の皆様の経営発展のため、先端技術の普及、担い手の育成、地域振興を柱に職員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月

筑後農林事務所八女普及指導センター長 仁田原 靖子

1 普及活動成果

(1) 八女地域の園芸産地をけん引する企業的経営体の育成

【要 約】

八女地域の園芸産地維持・発展のため、八女地域農業振興推進協議会（以下、八女農推協という）と連携し、企業的経営体の育成に取り組んだ。

J A 営農指導員や専門家と連携し、規模拡大志向農家を支援した結果、新たに2戸のモデルとなる企業的経営体を育成した。また、「八女地域農業経営アカデミー」（以下、アカデミーという）を開催し、規模拡大に意欲のある農業者の企業的経営意識の醸成を進めた結果、9名が経営目標に向けた戦略を立てた。

さらに、アカデミー修了生等を継続して支援するためのネットワークを設立した。

【目 的】

八女地域の園芸品目は、農業者の高齢化が進み、産地規模の縮小が懸念される。また、雇用を活用した企業的経営体は少ない。そこで、企業的経営に向けた意識醸成や規模拡大に関連する課題の整理、検討を進め、企業的経営を志向する農業者を支援し、モデル的な企業的経営体を育成する。これらの取り組みにより他の認定農業者や若手農業者へ経営規模の拡大を波及させ、園芸産地の維持・発展を目指す。

* 企業的経営体：雇用労力を利用して下記に示す面積以上の栽培に取り組む経営発展を志向する農家

イチゴ 60a、トマト 60a(冬春+夏秋)、ナス 60a(冬春+夏秋)、キク 80a、ミカン 400a、ブドウ 170a、ナシ 300a

1 活動対象の概況

J A ふうおか八女 主要園芸部会の状況

部会名	総農家数		面積		規模別農家数
	H26年	R3年	H26年	R3年	(R3年)
イチゴ	496戸	453戸	113ha	100ha	60a以上～ 2戸
トマト(大玉、中玉)	98	95	25	21	60a以上～ 2戸
ナス	148	123	26	21	60a以上～ 1戸
電照菊	153	103	73	57	80a以上～ 15戸
ミカン	415	334	469	394	400a以上～ 10戸
ブドウ	325	312	171	158	170a以上～ 5戸
ナシ	109	89	113	90	300a以上～ 1戸

2 活動の内容等

(1) 企業的経営意識の醸成

アカデミーを令和3年度に引き続き開催し、8名が受講した。SWOT分析による自らの経営の現状分析、社会保険労務士による労務管理や、公認会計士等による経営管理セミナーの開催、また、前年度修了生からのアドバイスや受講生同士の意見交換を行い、将来目標や目標達成に向けた具体的戦略の作成を、J A 営農指導員と普及指導員が連携して支援した。

* SWOT分析とは、「強み」や「弱み」等の内部環境、「機会」や「脅威」等の外部環境の4つの要素を使い、事業計画や経営戦略を立てるために用いられる手法。

(2) 企業的経営体の育成

ア 企業的経営計画を策定した農業者に対し、普及指導センターとJAが連携したコンサルや専門家による相談会により、計画の実現を支援した。

イ 八女農推協の野菜、果樹、花き専門部会における規模拡大に伴う雇用確保に対応するため、短期雇用アプリや人材派遣会社の活用手法について、各生産部会青年部を対象とした情報提供や研修会開催、試験導入等の実証を行った。

3 活動の成果

(1) 企業的経営意識の醸成

ア アカデミー受講生の8名が経営理念や目標とする経営像、目標達成に向けた経営戦略を盛り込んだビジネスプランを策定した。

イ 令和2～4年度アカデミー修了生等に対して継続して支援するため、組織化し、設立研修会を開催した。

(2) 企業的経営体の育成

ア コンサルテーションによる支援の結果、令和4年度は2戸（カンキツ1戸、カンキツ+キウイフルーツ1戸）が面積拡大などの目標を達成した。

イ キク、カンキツ、キウイフルーツでアプリ活用による短期雇用を試行し、労力確保に向けた有効な手段であることが確認できた。

ウ 優良園地の確保に向け、ナシの園地マップを作成し、見える化したナシ園地情報を生産者及び関係機関と共有した結果、園地の流動化が図られた。



アカデミーを受講する農家



人材派遣会社からの雇用の実証

4 今後の見通し又は課題

(1) 企業的経営志向農業者に対する目標達成支援

(2) 経営規模拡大に向けた労働力確保の推進

(4) 規模拡大を志向する意欲ある農家の掘り起こしと企業的経営意識の醸成

(2) 八女地域中山間地農業の構造改革

【要 約】

中山間地域の農業生産の維持・発展を図るため、モデル地区の農地情報を一元的に集約した農地マップを、市、JA、農業推進機構と協力して作成し、中山間地域直接支払制度協定集落代表者らとの将来の農地利用について意見交換を実施した。

また、基幹品目である茶の生産において、不足する労働力の確保に取り組む組織を支援し、新たに2経営体が外部労働力を玉露の手摘みに導入した。

さらに、茶価低迷で厳しくなっている中山間地茶経営者の経営強化を図るため、ナス、キュウリなど複合品目の導入事例と、切枝、クリ、ミカン等の茶園転換事例を取りまとめた。加えて茶生産法人の経営安定化に向け、茶園共同管理の先進事例を取りまとめた。

【目 的】

中山間地域の農業生産の維持・発展を図るため、八女市黒木町笠原地区をモデル地区として、地域の農地マップを作成し、地域の法人、担い手、集落協定等による地域農地の将来を検討する場の設置を働き掛け、小規模な基盤整備事業を推進する。

また、茶生産において顕在化した茶生産時期の労働力不足に対し、地域外労働力の確保に取り組む組織の活動を支援し、導入する経営体の拡大を推進する。

さらに、茶価低迷で減少する農業所得を確保するため、複合品目導入や条件不利な茶園の品目転換による経営強化を支援する。茶法人においては、農地集約に加えて茶園共同管理の導入・拡大などによる経営体質の強化を推進する。

1 活動対象の概況

○対象地域：八女市東部中山間地域（黒木、上陽、矢部、星野）

○対 象 者：J Aふくおか八女茶業部会662戸（黒木320戸、上陽142戸、立花7戸、矢部26戸、星野167戸）、茶生産法人、
短期雇用システム導入協議会、玉露摘みサポーター他

2 活動の内容等

(1) 担い手による生産体制の整備

市、JA、農業振興推進機構と連携して、モデル地区の農地台帳、水稻作付計画、協定集落農地台帳、補助事業実績など多様な情報を地理情報システムに集約し、耕作者年齢などの情報で色分け表示できるマップを作製し、農地の将来に関する意見交換会を実施した。

(2) 地域外労働力の導入

短期雇用システム導入協議会の募集活動を支援するとともに、外部労働力の確保を志向する経営体に対して協議会への加入を推進した。玉露摘みサポーターを募集する組織に対しては、マッチングアプリや他産業の動き等の情報提供や作業にあた

り参考となる摘み方の動画を提供した。

(3) 複合品目導入、茶園転換

茶生産者のナス、キュウリ、切枝の導入事例や、茶園からクリ、ミカン、切枝への転換事例を調査し、事例集を取りまとめ、推進に向けて関係機関で情報共有した。

(4) 共同管理

個別管理から法人管理に転換した優良事例を県内、県外で調査し、法人への提案に向けて事例集を取りまとめた。

3 活動の成果

(1) 担い手による生産体制の整備

市、JA と協議を重ね、モデル地区の設定や取り組み内容などについて合意形成して取組を進めた。各機関と連携して整備したモデル地区全体のマップを基に、中山間地域等直接支払制度協定集落と多面的機能支払交付金活動組織の代表者で、地区の農地の将来に関する意見交換会の実施に至った。

(2) 地域外労働力の導入

短期雇用システム導入協議会では、6 経営体で取り組みが継続されている。新たに取り組みが始まった玉露摘みサポータは、2 経営体で導入された。

(3) 複合品目導入、茶園転換

事例調査結果を基に、複合品目導入事例集と茶園転換事例集を作成した。また、茶生産法人で、切枝の導入に関する研修会を実施した。

(4) 共同管理

共同管理へ転換する経緯や運営方法、作業スケジュールの組み立て、共同化の課題やメリットなどについてとりまとめ、事例集を作成した。



写真1 地区の農地の将来に関する意見交換会



写真2 クリに転換した茶園

4 今後の見通し又は課題

優良農地の活用に向けた、地域農地の将来を考える会の設置
関係機関と連携した複合品目導入、茶園転換の検討
茶生産法人経営の安定化に向けた共同管理への誘導

(3) 八女の産地を支える経営体の育成と担い手の確保

【目的】

八女地域の産地の維持や発展を図るために、経営改善に意欲的で地域の将来を担う経営体の育成を図る。

1 活動対象の概況

- ・経営体育成支援対象者 50 戸（専門家派遣、県域経営アカデミー対象者など含む）
- ・認定農業者 1,068 戸、認定新規就農者 35 戸

2 活動の内容等

(1) 経営体の育成

対象となる経営体毎に目標を設定し、カウンセリングやコンサルテーションで収量増加や規模拡大など目標達成に向けた技術的、経営的支援を行った。また、専門家や県域の研修会を活用し、目標の実現に向け専門性の高い知識の習得を支援した。

(2) 認定農業者等の確保

各市町と協力し、経営改善計画作成を支援した。また、関係機関に対し、認定農業者の育成や経営改善支援などの研修会や検討会を開催した。認定新規就農者に対しては半期ごとの経営相談とほ場巡回を実施し、経営の早期確立支援と認定農業者への誘導を行った。

3 活動の成果

(1) 経営体の育成

経営改善経営体数 (R3～R4) 累計 34 戸(普通作 6 戸、野菜 11 戸、花き 3 戸、果樹 8 戸、特産 6 戸)

(2) 認定農業者等の確保

認定新規就農者に対し認定農業者への誘導を行い、新たに 9 戸が認定農業者となった。また、将来の認定農業者の確保に向け、認定新規就農者が 12 戸増加した。

4 今後の課題

カウンセリングやコンサルテーションを継続し、地域の将来を担う経営体の育成を図る。また、認定新規就農者の早期の経営確立を図り、認定農業者への誘導を行う。



広川町認定農業者連絡協議会研修会



経営者部会視察研修会

(4) 硬質小麦の高品質・安定生産に向けて

～タンパク質含有率 12%の安定確保～

【目的】

「ラー麦（ちくしW2号）」は中華麺用小麦として、実需者からタンパク質含有率 12%以上が求められている。筑後市の8法人で構成される「JAふくおか八女ラー麦研究会」は、ここ数年間 12%に達しておらず、タンパク質含有率の向上が課題であった。

このため、JAふくおか八女と連携し、各法人ごとに栽培管理を徹底的に見直し、全法人のタンパク質含有率 12%達成を目指す。

1 活動対象の概況

- ・ JAふくおか八女ラー麦研究会（筑後市8法人） 264ha

2 活動の内容等

(1) 生産履歴の分析（令和2～4年度）

過去3年分の「ラー麦（ちくしW2号）」タンパク質含有率達成・未達成の要因を法人ごとに把握するため、タンパク質含有率や収量を調査し、各法人の生産履歴から適切な栽培管理ができているか分析した。

(2) 講習会の開催（令和2～4年度）

生産履歴の分析結果と、達成法人の栽培管理事例を紹介するなど現地普及を図った。

また、現地の生育ステージに応じた尿素的葉面散布の適期判断方法を指導した。

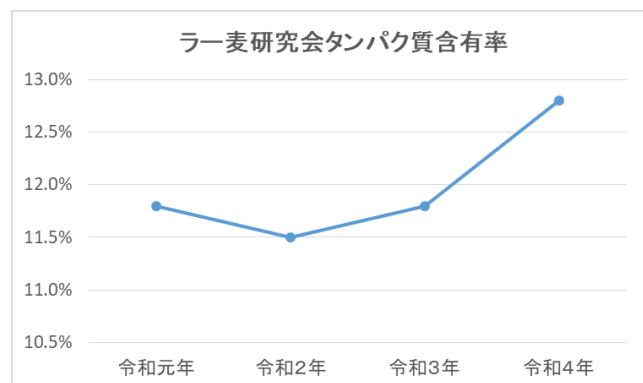
(3) 重点指導対象の支援（令和3～4年度）

連年でタンパク質含有率が低い法人に対して、個別に播種時期の前倒しと適期に尿素葉面散布するよう重点的に指導した。

3 活動の成果

(1) タンパク質含有率 12%以上を達成

過去3年間のラー麦研究会の平均値は 12%未満だったが、令和4年産は過去最高の 12.8%になり、全法人が達成した。



4 今後の取り組み

次年度もタンパク質含有率 12%以上を維持するために、主に播種時期の統一や適期の尿素葉面散布について、JAふくおか八女と連携して講習会や現地で指導を実施していく。

(5) 新技術導入によるナスの生産性向上

～ICTを活かしたハウス内環境制御技術の実践～

【目的】

八女地域の促成ナスでは、ハウス内気象環境測定・制御装置の導入が進みつつあり、これらの装置を活用した環境制御技術の確立が求められている。そこで、研修会や実証試験を通じてハウス内環境制御技術の実践を支援する。

1 活動対象の概況

- ・ J A 福岡八女ナス部会イノベーション研究会員 16 名

2 活動の内容等

- (1) ハウス内気象環境測定・制御装置の活用研修会
会員個々のハウス内気象環境（気温、湿度、CO₂濃度、日射量等）について、データの見方や機器の制御方法について研修会を実施した。
- (2) 新技術の現地実証
環境制御装置を利用した日没後（EOD）加温技術について現地実証を行い、生産現場への導入を促した。また、効率的なCO₂施用を目的としたダクト施用について現地実証ほを設けた。

3 活動の成果

- (1) 研究会員の収量が増加
ハウス内気象環境測定装置を活用した栽培管理の実践により、R1、2年産の平均収量に対してR3年産の収量は106%に向上した（図1）。
- (2) 新技術の実証・導入
環境制御装置を利用した日没後（EOD）加温技術によりA品率の向上効果が確認され（図2）、新たに9戸の生産者が環境制御装置を導入した。

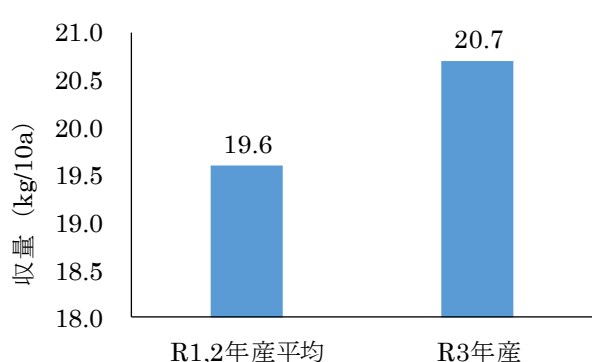


図1 イノベーション研究会員の収量

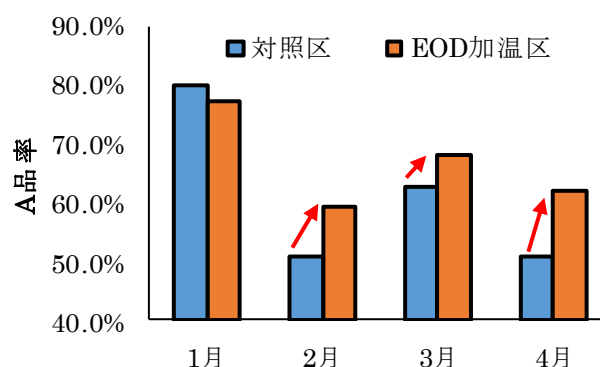


図2 EOD加温によるA品率の向上効果

4 今後の課題

CO₂施用や加温に用いる燃油費の高騰が続く中で、費用対効果の高い環境制御法について検討する。

(6) キク産地を担う持続的経営体の育成に向けて

～秀品率改善対策情報の発信や個別面談により生産性を向上～

【目的】

キク産地維持のために、収益性が高い持続的経営体を育成する必要がある。そこで、キクの秀品率を向上させ、持続的経営基準となる施設面積 3.3 m²あたり売上 15,000 円以上農家割合を増加させる。

1 活動対象の概況 (令和2年度当初)

JAふくおか八女電照菊部会 108名 うち青年部 28名

JAふくおか八女プリンセスママ部会 45名 うち両部会重複加入者15名

2 活動の内容等

(1) 秀品率改善対策調査に基づく技術情報の発信

部会員に対するアンケートにより秀品率低下要因調査を実施した。そこで主要因として挙げられた病害虫及び曲がり対策として、農薬感受性検定及びケイ酸資材散布試験を行い、その結果に基づいた技術情報を発信した。

(2) 電照菊部会青年部全員への個別面談・指導

電照菊部会青年部員全員に対して個別面談を行い(写真1)、各戸の課題に応じた改善提案を行った。また、うち7戸を重点指導対象者として秀品率向上対策等の技術支援を行った。

3 活動の成果

(1) 秀品率10%以上改善した農家が増加

電照菊部会で6戸(うち青年部4戸)、プリンセスママ部会で6戸が過去2年間の平均と比較して令和4年の秀品率が10%以上増加した。

(2) 施設面積3.3 m²あたり売上15,000円以上農家割合が増加

重点対象者2戸が新たに施設面積3.3 m²当たりの売上15,000円以上を達成し、目標達成農家割合が32%(令和2年)から36%(令和4年)に増加した(図1)。



写真1 青年部個人面談会の様子

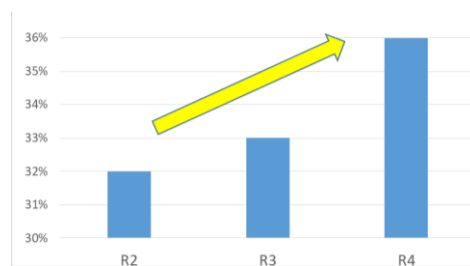


図1 施設面積 3.3 m²あたり売上 15,000 円以上の農家割合推移

4 今後の課題

個別の課題に応じた指導を継続するとともに、冬季の上位階級品率向上につながる環境制御技術や、秀品率低下の主要因となる曲がり改善に効果的なケイ酸資材散布技術を普及させる。

(7) 優良品種の導入と生産技術の向上による産地振興

～販売に有利な高品質果実の安定生産に向けた産地体制の強化～

【目的】

八女地域の主力果樹品目であるカンキツ、ブドウは、高品質のものが高価格で取引されている。そこで、優良品種の導入や技術の向上によって高品質果実の生産割合を高め、果樹産地の振興を図る。

1 活動対象の概況

- ・ J Aふくおか八女 かんきつ部会 351名、404ha
- ・ J Aふくおか八女 ぶどう部会 315名、163ha

2 活動の内容等

(1) 優良品種等導入拡大

カンキツでは「早味かん」「いち陽」、ブドウでは「巨峰」の着色優良系統品種について現地調査等を行い、生産者への説明会等を通じて新規導入推進を図った。

(2) 品質向上

カンキツでは、生育期間中の土壌水分量の調査、ブドウでは、加温シャインマスカットの結実管理等に関する展示ほ調査を行い、現地指導に活用した。



図1 「巨峰」の着色優良系統品種
左：優良系統、右：対照系統

3 活動の成果

(1) 優良品種等導入拡大

優良品種等の導入面積は、「早味かん」「いち陽」を含むかんきつ部会推進品種で約241ha、巨峰の着色優良系統で約23haとなり、導入が進んだ(図2)。

(2) 品質向上

カンキツのブランド品率は27%(令和4年度)、シャインマスカットの秀品率は68%となった。

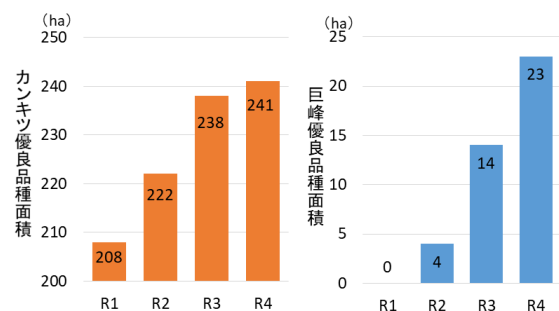


図2 優良品種等の導入累積面積推移

4 今後の課題

カンキツ及びブドウの優良品種等の栽培特性調査及び品質の安定化に向けた現地調査等を引き続き実施する。

(8) 伝統本玉露生産者の確保に向けた仕組みづくり

【目的】

八女茶ブランドを支える伝統本玉露（以下、伝玉）は、中山間地集落を中心に生産され、集落内の住民を主とする摘み手によって支えられてきた。しかしながら、生産者や地域内労働力の高齢化に伴い摘み手の確保が困難となっている。また、生産量は20年前の約30,500kgから約8,200kgと7割減少しており、今後も生産規模の縮小が見込まれる。

そこで、作成した伝玉栽培マニュアルを用いた伝玉栽培技術の伝承や、雇用労力の整備、各種PR活動を行うことで、八女茶の旗艦茶種である伝玉の生産維持を図り、八女地域の茶産地維持に資する。

1 活動対象の概況（R3年度）

- ・JAふくおか八女茶業部会員824名、県茶業青年の会会員数51名
- ・うち伝統本玉露生産者116名（星野48名、黒木57名、上陽9名、矢部2名）
- ・伝玉生産面積13.6ha（星野4.4ha、黒木8.4ha、上陽0.7ha、矢部0.1ha）

2 活動の内容等

(1) 「八女伝統本玉露」の生産維持・確保

伝玉の危機意識を関係機関で共有し、リタイア予定生産者と規模拡大を目指す生産者を一元的に把握し、迅速にマッチングできる体制を整備。また、SNS等を利用して栽培マニュアル動画を活用し、栽培規模拡大を推進した。

(2) 雇用確保のための環境整備

繁忙期の摘採作業などの労働力確保に備え、冬季の摘心作業でマッチングアプリを利用した外部労働力確保を支援した。

3 活動の成果

(1) 「八女伝統本玉露」の生産維持・確保

生産者の意向調査は、令和5年度の八女伝統本玉露生産振興事業の申請に併せた実施が決定した。また、茶業青年の会玉露プロジェクトのSNSで栽培マニュアル動画を活用する環境を整備した。

(2) 雇用確保のための環境整備

若手生産者が伝玉園の冬季作業である摘心作業で、雇用マッチングアプリを利用した外部労働力導入を実施した。



図1 外部雇用者の摘心の様子

4 今後の課題

伝玉生産者への生産継続に関する意向調査を実施し、マッチングの取組を強化する。また農繁期である5月の伝玉園手摘み労働力確保に向け、アプリ等多様な方法での確保を支援する。

2 トピックス

(1) 就農支援に係る検討会を開催

管内では、毎年 30 人程度の方が新たに農業を始めており、その多くが制度資金を活用し、施設整備や農業機械の導入を行っています。

制度資金の活用にあたっては、市町、JAふくおか八女、日本政策金融公庫等の多くの関係機関が関与し、速やかな対応が求められます。

そこで、就農支援に携わるすべての関係機関が集まり、新規就農に係る施策や資金の流れ、経営計画作成支援のポイント等を共有し、新規就農者のスムーズな就農と早期経営確立に向けた認識を深めました。

今後も、このような会議を開催することにより、新規就農者のサポート体制を強化し、地域の担い手育成に取り組めます。



検討会の様子

(2) 水稻新品種「恵つくし」の実証試験を実施

福岡県が育成した水稻新品種「恵つくし (ちくし 95 号)」は、いもち病や高温障害に強いといった特徴があり、令和 5 年度より八女市中山間地において「つくしろまん」に代わり一般栽培が開始されます。

本年度は、管内中山間地 5 カ所（黒木地区 2、上陽地区 1、星野地区 1、矢部地区 1）に「恵つくし」の実証ほを設置しました。

「恵つくし」は「つくしろまん」に比べて、出穂期および成熟期は 1 週間程度早く、いもち病に強いことが実証されました。また、収量性が高く、食味は「つくしろまん」と同程度に良いとの評価を得ました。一方で、過度な施肥や中干し不足により倒伏が発生したことから、倒さない栽培管理が必要なが分かりました。

今後も、関係機関や生産者と連携しながら「恵つくし」の栽培技術の確立を目指していきます。



検討会の様子

(3) イチゴ収穫ロボットの開発が始まる

イチゴの収穫は、傷みやすい果実を扱うことから熟練した技術が必要な作業です。また、その労働時間はイチゴのパック詰めと同じく、総労働時間の20%を要することから、長時間労働の要因の一つとなっています。

そのような中、福岡県農林業総合試験場では県内の企業と連携して、イチゴ「あまおう」の収穫ロボットの開発実証に向けた取り組みが進められています。

八女普及指導センターは、JAふくおか八女いちご部会とともに、収穫ロボットが「あまおう」の時期別収穫期をAIにより判定するための画像データ収集に協力しています。

今後、収穫ロボットのようなスマート機器の開発が進むことで、労働時間の軽減や労働力不足の解消、それに伴う生産規模拡大が進むことが期待されます。



収穫ロボットの試作機

(4) 短期雇用マッチングアプリ「daywork」の実証を開始

近年、管内の花き産地では労働力確保が課題になっており、キク生産者が規模拡大を行える条件として「労働力が確保できること」を挙げる声が多くなっています。

そこで、八女普及指導センターでは関係機関と連携して、管内のキク農家に1日ごとに求職者とマッチングして雇用を行えるアプリ「daywork」の有効性の実証を行いました。また、八女地域農推協花き部会で求職者の登録を推進するチラシを作成して関係機関の施設等に配架しました。

その結果、令和4年4月～令和5年1月までに7戸がアプリを実際に使用し、29件の求人が出されて24件でマッチングし、延べ31人が雇用されました。使用した生産者からは「気軽に使えて労働力不足に対応できる」「求職者が若くて質がいい人が多い」といった声が上がりました。



「daywork」求職者登録推進チラシ

(5) JA ふくおか八女なし部会園地情報整理の取組を開始

なし部会は、現在部会員数 86 名、面積 89ha で 20 年前から半減しており、今後も担い手や面積の減少が懸念されます。

そこで、JA、市町、普及指導センター等で組織する農業振興推進協議会（農推協）果樹部会は、なし部会と協力して、優良園地の維持を目的に、貸し借りのマッチングを推進するため、園地ごとの情報（貸す意向、単収、園地状況）を営農管理システム Z-GIS 上に整理する活動を行いました。

担い手への優良園地集積の取組について、11 月 17 日に農推協果樹部会、12 月 6 日に部会総会にて報告しました。結果を聞いた生産者からは、「取組のおかげで 2 件のマッチングが成立した。」「園地を買いたい意向があるから、良い情報があったら教えてほしい。」など好意的な意見が出ました。



園地情報整理（イメージ）

(6) 手もみ実演で知事と各国領事をおもてなし

令和 4 年 5 月 13 日に、福岡県主催で「産業観光（インダストリアル）ツアー」が実施され、服部知事と福岡県に駐在している各国の総領事の方々が、八女市と久留米市を訪問されました。

そのなかで、八女市民会館 おりなす八女においては、八女普及指導センターが事務局を務める「福岡県八女茶手もみ技術研究会」が、お茶の伝統的な製法である手もみ製法を実演し、参加者にもお茶の手もみを体験してもらいました。

手もみ体験の中では、福岡県八女茶手もみ技術研究会会長の松延 力氏や、実演を行った会員の永松 優次氏、永松 宏章氏へ多くの質問があり、参加者の皆さんの伝統的な手もみ製法や八女茶への関心の高さがうかがえました。

体験後に行った手もみ茶の試飲では、「香りが良く、とてもおいしかった」との声が多く、伝統ある手もみの技術と八女茶の魅力を世界に向けて発信しました。



手もみ体験の様子



参加者集合写真

(7) 4Hクラブが新たなプロジェクト活動を開始

管内の30歳以下の農業者で構成される、八女地域4Hクラブ連絡協議会には、現在24名の会員が在籍しています。

クラブ員は班に分かれ、それぞれのテーマに沿ったプロジェクト活動を実施しています。今年度から、①HP作成やネット販売を活用して八女農産物の認知度を高める「マーケティング戦略班」、②鳥獣害対策や農業高校との交流を図り、地域農業に貢献する「地域貢献班」、③最新の施設園芸や自動化技術等の調査・研究活動を通して現地導入を検討する「新技術班」の3班体制で、プロジェクト活動を行っています。マーケティング戦略班ではSNSによる情報発信、地域貢献班では狩猟免許取得や農業高校生の職場体験の受け入れ、新技術班では新技術の事例収集など、ユニークな活動を行っています。



活動テーマの協議



罠設置の講習（地域貢献班）

(8) 中山間地域スマート農業機械実演会を開催

経営耕地面積の約7割を中山間地域が占める八女市では、担い手の減少に伴い中山間地域の農地の維持・管理が難しくなっています。そこで、八女市黒木町と八女市星野村で、中山間地域において省力化が期待されるスマート農業機械として、ラジコン草刈機と農業用ドローンの実演会を行いました。

実演会では、それぞれのスマート農業機械のメーカー担当者が、機械の能力や操作する上での注意点などについて説明を交えながら、草刈りや農薬散布の実演を行いました。

参加した農業者からは、「今回の実演会を通じてスマート農業機械に興味を持った」、「導入を検討したい」といった意見もあり、農業者の関心の高さが窺えました。



ラジコン草刈り機の実演



ドローンによる農薬散布の実演

3 八女地域農業の概要

- 立地条件は、星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高 5m から 700m に存在する。
- 令和 3 年の耕地面積は、9,099ha（田 4,572ha、畑 5,252ha）で、平成 23 年より 7.4%（田 3.6%、畑 10.8%）減少し、年々減少傾向にある。特に畑面積の減少が大きい。管内耕地の特徴は、畑作(茶園、樹園地含む)を中心とした園芸農業が盛んなことである。
- 令和 2 年の総農家数は 4,844 戸（うち販売農家数 3,171 戸、65%）で、平成 27 年より 23.3%減少した。
- 令和 4 年 3 月末の認定農業者数は 1,036 経営体（前年 1,068 経営体）でやや減少している。令和 3 年の新規就農者数は 43 人で、内訳は Uターン 10 人、新規参入 29 人、新規学卒 4 人となっている。
- 令和 2 年度の農業産出額は、357 億円と前年（368 億円）を 3%下回った。なお、内訳は普通作 25.6 億円、野菜 116.5 億円、花き 39.5 億円、果樹 80 億円、特産（茶）19 億円、畜産 55.2 億円、その他作物 15.3 億円となっている（資料：農林水産省）。

1 耕地の概況（資料：第 58 次・第 68 次九州農林水産統計年報）

耕地面積 (ha)	年	八女市	筑後市	広川町	合計	対比率
		平成 23	6,960	2,040	830	
	令和 3	6,450	1,950	699	9,099	92.6%
うち田	平成 23	2,530	1,640	402	4,572	96.4%
	令和 3	2,450	1,580	378	4,408	
うち畑	平成 23	4,420	404	428	5,252	89.2%
	令和 3	4,000	365	321	4,686	

注) ラウンドの関係により合計が一致しない場合がある。

2 農家の動向（資料：2015 年・2020 年農林業センサス）

項目	年	八女市	筑後市	広川町	管内計	対比率
総農家数 (戸)	平成 27	4,796	889	634	6,319	76.7%
	令和 2	3,614	732	498	4,844	
うち販売農家数	平成 27	3,144	580	460	4,164	76.2%
	令和 2	2,340	473	358	3,171	

4 普及活動推進体制

(1) 課・係体制と活動内容

※()は係員数 令和4年4月1日現在

センター長 参事	地域 振興課	地域係 (5) (うち庶務1)	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者等産地を支える担い手の経営改善を支援 女性農業者等の経営参画を支援 新規就農者等の確保・育成を支援 	
		水田 農業係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 水田農業担い手の経営強化やスマート農業機械導入による軽労化を支援 米大豆新品種の生産技術確立を支援 気象変動下における米麦大豆の収量・品質向上を支援 水稻種子の安定生産と品質向上を支援 	
		野菜係 (6)	<ul style="list-style-type: none"> イチゴ・トマト・ナスでは、スマート農業技術を活用した生産技術改善による収量向上を推進 イチゴ・トマト・ナスにおける新規生産者の早期技術習得を支援 野菜産地強化計画の実践を支援 	
	野菜 花き課	花き係 (3)	<ul style="list-style-type: none"> キクの生産性向上とキク産地を担う持続的経営体の育成 切り花における需要に応じた計画的生産の推進と中堅生産者の経営力強化支援 花き産地強化計画の実現を支援 	
		果樹 特産課	果樹係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 果樹産地構造改革計画に沿った生産販売体制や農家の経営体質強化を支援 かんきつ、ナン、ブドウの優良品種導入を推進 キウイ、ナシでの省力化技術拡大による生産量確保を支援
			特産係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 茶法人経営体等に対する経営体質改善・強化の支援 碾茶を中心とする輸出対応茶生産拡大や、有望新品種の導入の推進 伝統本玉露生産者の育成や雇用確保による玉露産地維持の支援

(2) 重点課題プロジェクト班の課題及び活動内容

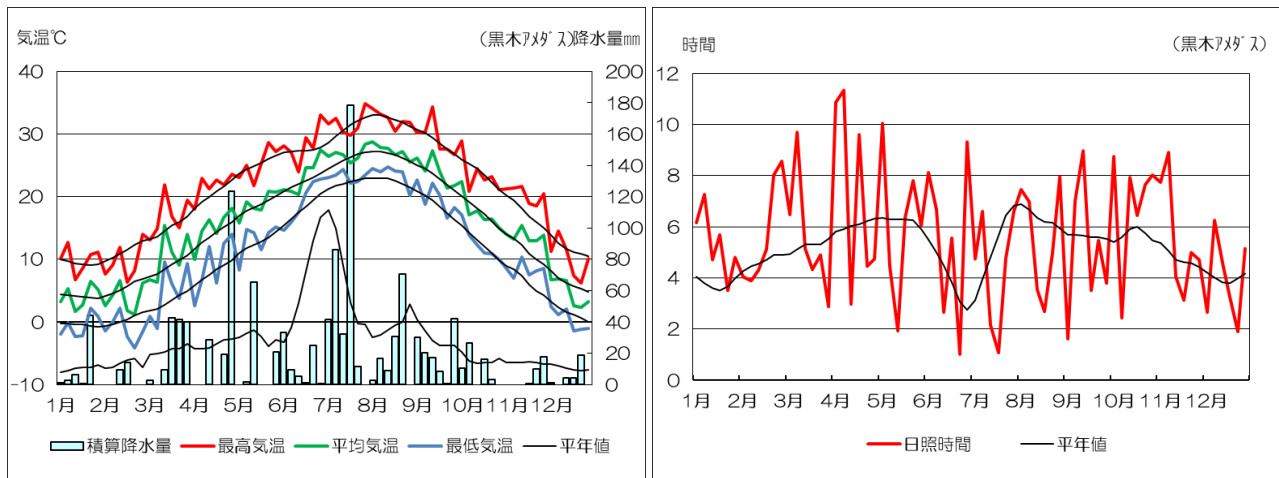
課題名	主な活動内容
八女地域の園芸産地をけん引する企業的経営体の育成 (全域) R2～R6	園芸産地の維持・発展と個別経営体の経営向上を目的として、八女地域のモデルとなる企業的経営体を育成する。そのために、企業的経営を志向する園芸農家の経営発展を支援するとともに、企業的経営体育成のための地域の意識醸成や条件整備を進める。
八女地域中山間地農業の構造改革 (八女市東部中山間地域) R4～R6	八女市黒木町笠原地区をモデル地区として、将来の中山間地域農業の発展・維持の検討、実践のための協議会の設立を支援する。また、中山間地域茶生産者の経営強化のため、複合品目導入や条件不利茶園における有望品目への転換を推進する。茶法人に対しては管理機械の共同利用や茶園共同管理の導入・拡大などの経営体質強化を推進する。

(3) 推進班体制の所内運営事項

班名	所内運営事項
青年農業者育成推進班	<ul style="list-style-type: none"> 4Hクラブ活動への支援 青年農業者の育成
情報推進班	<ul style="list-style-type: none"> 普及活動に関する情報提供の検討 普及活動成果集の編集
経営体育成推進班	<ul style="list-style-type: none"> 経営体育成全般に係る業務の検討推進 雇用型経営体の育成検討
環境保全及び食の安全推進班	<ul style="list-style-type: none"> 農薬の適正使用の推進 GAPの推進、食の安全・安心推進 持続的農業の検討、推進 ふくおかエコ農産物認証制度の推進・支援

5 令和4年の気象と各作物の生産概況

(1) 気象概要



【特記事項】 () 内は平年値

年平均気温：15.8℃ (15.4℃)、年間降水量：1256 mm (2053 mm)

年間日照時間：2034 時間 (1988 時間)

梅雨入り：6月11日 (6月4日)、梅雨明け：7月22日 (7月19日)

梅雨期降水量 370 mm (700 mm)、8月降水量：129 mm (225.8 mm)

(2) 令和4年度農業気象災害

令和4年農業気象災害(八女地域)

気象災害			作物に被害	施設・ほ場に被害
①	4月5日	霜害	キウイフルーツ、茶	
②	4月26日	風雨	大麦、小麦	
③	5月18日	突風		キク、イチゴ
④	6月23～24日	強風		ビニールハウス
⑤	7月19日	大雨	シンテツポウユリ	
⑥	9月6日	台風	水稲、大豆	
⑦	9月18～19日	台風	水稲、大豆	



台風で倒伏した水稲

(3) 各作物の生産概況

【普通作】

水稻	天候に恵まれ、初期生育は良好だった。出穂期・成熟期は平年並み～2日程度早く、天候不良の影響を受けた品種では不稔穂が見られた。収量は、「夢つくし」ではやや少なくなったが、その他品種では平年並～やや多かった。
麦	出芽は良好、草丈は平年並、茎数はやや多く、播種時期による生育差が大きかった。平年と比べ、出穂期は大麦で遅く、小麦でやや遅くなり、前年より10日程度遅くなった。降雨で倒伏や退色が見られたが、収量は平年よりやや多かった。
大豆	適正播種の実施によって生育量の確保ができた。台風による倒伏、高温乾燥の影響から、粒の肥大が制限され中小粒主体となった。収量は前年より多く、平年並となった。

【野菜】

イチゴ	育苗期は一部炭そ病の発生がみられたが、例年よりも降水量が少なく、順調に生育した。出荷は11月6日から開始された。朝晩の寒暖差で前年よりも果実肥大は良好で、出荷ピークは12月中旬頃となった。年内の出荷量は昨年を上回った。
ナス	夏秋ナスは5月から出荷が開始されたが、6月の高温、9月の台風により樹勢が低下し、生産量は昨年より少なかった。 冬春ナスは8月下旬から9月下旬にかけて定植された。9月の台風により浸水が一部見られたが、その後の多日照により生育は回復し、年内の出荷量は昨年を上回った。
トマト	夏秋トマトの生育は順調で、6月中旬から出荷が開始された。9月の台風で展張ビニールを除去し、病害が増加したため、出荷量は昨年を下回った。 冬春トマトは9月中旬～下旬を中心に定植された。定植後の高温によりやや強草勢であったが、生育は順調で、年内の出荷量は前年よりも多くなった。

【花き】

施設キク	6月の梅雨量は少なく高温で経過したことにより夏秋キクの一部で生育抑制、奇形花の発生などが散見された。部会員減少や他作物への転換などにより出荷量は減少したが、年間通して概ね市場価格が高く推移した。
ガーベラ 草花	梅雨時期の降水量が少なく、7月は高温であったが、病害が少なく、虫害の影響も小さかった。改植がやや少なかったことから、出荷量は昨年度よりも多い傾向が続いた。販売は高単価で推移した年であった。
シンテッポウ ユリ	8月盆出荷用については、発芽不良が発生し成苗率が低下した。定植後は、例年より気温が高く降水量が安定したため、収穫期はやや前進化した。9月彼岸出荷については一部ロゼットが発生し出荷率が減少した。

【果樹】

かんきつ	今年度は早生以降の花が極端に少なく、生産量は大幅に減少した。生育は平年並みだったが、夏期のまとまった降雨により、極早生系統中心に裂果が発生した。果実品質は前年同様に高糖傾向だった。
ブドウ	加温作型では、冬季の低温や乾燥等が懸念されたものの、概ね品質は良好となった。トンネル作型では、着果過多・成熟期の高夜温等により、着色不良や糖度上昇遅延等が発生した。
ナシ	開花時期の霜により、一部地域では被害が見られた。また、梅雨時期の降水量が少なく、高温乾燥による病害虫の影響が懸念されたものの、階級は概ね良好で、特に「幸水」は高単価で推移した。
キウイ フルーツ	3月の気温が高く、発芽日は平年並みとなった。4月上旬に平坦部で晩霜害を受けたものの、開花期間の降水量が少なかったため、全体として結実が良好であった。高温・乾燥により果実肥大は不良であったが、着果量が多く、平年並みの収穫量となった。

【茶】

一番茶	萌芽は2～3月の低温により過去5年で最も遅く、荒茶の取引開始は昨年より6日遅い4月18日、生産ピークは平坦地4月30日頃、中山間地5月9日頃となった。前年秋季の乾燥による親枝充実不足や、4月5日に晩霜害を受けた園により前年より上場量は1割程度減少した。
二番茶	摘採は5月28日から開始され、生産のピークは平坦地6月7日～15日、中山間地6月12日～19日となった。荒茶価格は特に被覆栽培茶で千円中盤/kgと高値で取引され、平均単価は前年対比103.0%と上昇した。
秋期生育	秋芽の生育は8月中旬の豪雨を除き高温傾向で旺盛であった。10月および11月の高温傾向により秋整枝が遅れ、整枝面の母葉の着色や厚み不足の園も散見されたが、枝条数は多く充実した園が多かった。

6 令和4年度 表彰事業実績

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
令和4年度第76回 全国茶品評会	煎茶 4 kg	農林水産省 生産局長賞	(農) 八女美緑園製茶 代表 江島一信	八女市
令和4年度第76回 全国茶品評会	玉露	農林水産省 生産局長賞	宮原義昭	八女市 星野村
令和4年度 福岡県茶共進会	煎茶	農林水産大臣賞	樋口龍也	八女市 上陽町
令和4年度 福岡県茶共進会	玉露	農林水産大臣賞	グリーンティ日向神 田島隆光	八女市 黒木町
令和4年度 福岡県茶共進会	煎茶	九州農政局長賞	原田竜二	筑後市
令和4年度 福岡県茶共進会	玉露	九州農政局長賞	(農) みどり園大洲 林田和広	八女市 黒木町
令和4年度 福岡県茶共進会	煎茶	福岡県知事賞	樋口恵子	八女市 上陽町
令和4年度 福岡県茶共進会	玉露	福岡県知事賞	新枝折共同製茶工場 城志穂	八女市 黒木町
令和4年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	農林水産大臣賞	郷田篤	八女市
令和4年度 福岡県茶園共進会	玉露園	農林水産大臣賞	倉住健吾	八女市 星野村
令和4年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	九州農政局長賞	坂田輝彦	八女市 黒木町
令和4年度 福岡県茶園共進会	玉露園	九州農政局長賞	小山田幹男	八女市 黒木町
令和4年度 福岡県花き品評会	夏秋咲きギク (技術・ほ場の部・施設部門)	九州農政局長賞	柴田 孝保	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	夏秋咲きギク (技術・ほ場の部・施設部門)	福岡県知事賞	大隈 徳温	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	産物の部	福岡県知事賞	穴見 剛	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	電照ギク (技術・ほ場の部)	農林水産大臣賞	加藤 幸一	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	電照ギク (技術・ほ場の部)	農産局長賞	末石 敏	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	電照ギク (技術・ほ場の部)	九州農政局長賞	丸林 崇秀	八女市
令和4年度 福岡県花き品評会	電照ギク (技術・ほ場の部)	福岡県知事賞	園田 竜馬	広川町
令和4年度 福岡県農業指導功労者 表彰	—	福岡県知事賞	角 繁男	筑後市
令和3年度福岡県 大豆作経営改善共進会	大豆 (集団の部)	福岡県農業協同 組合中央会会長賞	農事組合法人 清流の里古川	筑後市
第23回 福岡県農林水産祭	畜産	名誉賞 (福岡県知事賞)	實本 太	筑後市

7 令和4年度 実証は一覧

係名	品目名	課題及び内容
水田農業係	水 稲	水稲新品種「恵つくし」の栽培技術確立
		低コスト資材の現地適応性の検討
	大 豆	大豆新品種「ちくしB5号」の栽培技術確立
		部分浅耕一工程播種技術による大豆の収量安定技術の実証
野菜係	トマト	夏秋作中玉トマトの黄化葉巻病耐病性系統比較試験
		冬春作大玉トマトの新系統現地適応性試験
		冬春大玉トマト栽培におけるかん水量と収量との関連検証
	ナ ス	夏秋雨よけナスにおける石灰遮光資材「ホワイトクール」試験
		冬春ナスにおけるCO ₂ ダクト施用の実証試験
		冬春ナスにおける簡易葉面積計を用いた適性葉面積診断
		ファンタジスタ顆粒水和剤のうどんこ病に対する防除効果の検証
	イチゴ	県育成系統試験
		換気連動型CO ₂ 施用システム実証試験
		ハウス内CO ₂ 濃度分布調査
		デュアルサイド水和剤のハダニ類に対する防除効果の検証
	花き係	輪ギク
スプレーギク		スプレーギクの1本あたりコスト低減につながる、炭酸ガス施用下における適正栽植密度の検証
ガーベラ		ガーベラにおける天敵資材を用いた防除効果の検証
リンドウ		8～9月出しリンドウの優良品種・系統の選定
キク		冬の省エネ・省力管理のための適応品種実証
サカキ		優良系統選抜に向けたサカキ挿し木技術の検討
キク		ジオゼット水和剤の立ち枯れ病(リゾクトニア菌)に対する防除効果の検証
キク		サフオイル乳剤のハダニ類に対する防除効果の検証
果樹係	カンキツ	カンキツ新品種「いち陽」の栽培特性と品質調査
		「早味かん」「北原早生」における仕立て方法の改善に関する実証
	キウイフルーツ	キウイフルーツにおけるブロー受粉の効果
	ブドウ	着色優良系「巨峰」の動態調査
ナシ	花の違いによる果実品質への影響	
特産係	茶	ダニオーテフロアブルのカンザワハダニに対する防除効果
		クミガードSCの赤焼病に対する防除効果

8 令和4年度 現地活動情報

(県ホームページ掲載)

No.	発信日	タイトル	係名
1	4/13	若手生産者らが新茶で手もみの技を競う	特産
2	5/10	八女伝統本玉露の摘採体験を行いました	特産
3	5/12	ブドウ高品質生産に向けて	果樹
4	5/16	八女地区4Hクラブプロジェクト活動開始	水田農業
5	5/19	手もみ実演で知事と各国領事をおもてなし	特産
6	6/9	農事組合法人が水稻の乾田直播栽培に挑戦！	水田農業
7	6/14	今年の八女茶の最高峰が決定！	特産
8	7/4	ナス栽培管理基礎セミナーを開催	野菜
9	7/4	イチゴ栽培管理基礎セミナーを開催	野菜
10	7/19	輪ギク若手生産者の経営改善に向けて	花き
11	7/22	農業大学校で就農相談会開催	地域
12	7/22	八女地区農村女性グループ研修会を開催	地域
13	7/29	女性農業者スキルアップ研修会開催	地域
14	8/16	若手生産者らが八女茶の魅力をPR	特産
15	8/19	トマト部会個別経営相談会を開催	野菜
16	8/26	第1回イノベーション研究会（イチゴ班）開催！	野菜
17	8/31	令和4年度八女地域農業経営アカデミーを開講！	地域
18	9/6	スマート農業機械実演会を開催	地域
19	10/4	八女地域農業経営アカデミーの第2講が開催されました。	地域
20	10/18	新規就農支援に係る検討会を開催	地域

No.	発信日	タイトル	係名
21	10/25	八女地域農業アカデミーの第3講を開催！	地域
22	11/1	女性農村アドバイザー研修会を開催	地域
23	11/4	県育成キウイフルーツ品種「甘うい」の出荷が始まりました	果樹
24	11/16	八女市4Hクラブ視察研修を実施	水田農業
25	11/16	キャリアプラン作成講座を開催	地域
26	11/25	イノベーション研究会（中玉とまと班）を開催！	野菜
27	12/2	八女・南筑後4Hクラブ技術交換大会を開催	果樹
28	12/2	農村女性グループ連絡研究会が販売会を開催	地域
29	12/6	農業士と女性農村アドバイザーが将来の八女農業を議論	特産
30	12/6	八女地区4Hクラブ意見・実績発表会を開催	特産
31	12/6	おいしい八女茶は茶園づくりから	特産
32	12/8	八女地域農業経営アカデミーの第4講を開催	地域
33	12/13	令和4年度まめまめ研修会を開催	水田農業
34	12/14	トマト部会員の個別巡回を実施しました	野菜
35	12/15	ミカン収穫期の労働力確保の取組み	果樹
36	12/15	若手かんきつ生産者が食味審査会を開催	果樹
37	12/16	八女地域農業振興推進協議会視察研修会を開催	地域
38	12/23	令和4年度キャリアプラン作成講座発表会及び修了式を開催	地域
39	1/4	JAふくおか八女なし部会園地情報整理の取組について	果樹
40	1/4	インボイス制度対策と社会保険制度に関する学習会を開催	水田農業

No.	発信日	タイトル	係名
41	1/12	キクICTグループ現地検討会を開催	花き
42	1/20	野菜イノベーション研究会（ナス班）を開催	野菜係
43	2/2	令和4年度八女地域農業経営アカデミーが修了！	地域係
44	2/13	八女茶の若手生産者らが経営力強化に向けた研修会を開催	特産

福岡県行政資料			
分類記号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703524	04	0002



作成者 福岡県筑後農林事務所

八女普及指導センター

所在地 〒834-0005 福岡県八女市大島 360

電話番号 (0943)23-3106

FAX番号 (0943)23-3107

eメールアドレス yame-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

センターの現地活動情報を掲載しています

URL <https://www.pref.fukuoka.lg.jp>

